

本校の学力・学習状況調査の結果をお知らせします

平成28年度
甲府市立北新小学校

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月19日(火)に全国の小中学校で実施されました。本校でも当日は欠席もなく、6年生37名が全員参加しました。調査内容は、大きく①教科に関する問題(国語・算数)と、②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。また国語と算数は、A:主として「知識」に関する問題と、B:主として「活用」に関する問題に分かれています。

この調査は、本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態等を明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導等に役立てることを目的としています。

8月末に結果が届き、本校でも、調査結果の分析を行ってまいりましたが、このたび分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思っております。

なお、調査に参加しました6年生一人一人には、既に個人票・問題・解答コピーを渡しており、学級において答え合わせ等を行っております。また、個別懇談において具体的に課題について説明していく予定です。よろしくお願いいたします。

分析結果について(全国・県との比較をとおして)

1 本校の概況

本校の結果は、国語A、国語Bはともに全国平均、県平均よりも上回っています。

反面、算数はA・Bともに全国平均、県平均を若干下回りました。

調査問題によって正答率に高低はありますが、特に国語Aにおける「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(漢字の読み書き)、算数Aの「量と測定」において高い正答率を示していました。

全国学力・学習状況調査の結果につきましては、山梨県教育委員会の分析にもありますように全国正答率の±5%の範囲にある場合は、全国平均とほぼ同等であると考えています。

2 本校の主な課題

国語

国語A 主として「知識に関する問題」からみえた課題

- 「目的や意図に応じて、収集した情報を関連付けながら話し合う」趣旨の設問で、話し合いの説明として適切なものを選択する設問の正答率が低い。
- ローマ字を書く、読むの設問の正答率が低い。(「りんご」を書く、「hyaku」を読む)

国語B 主として「活用に関する問題」からみえた課題

- 「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する」趣旨の設問で、質問を書く設問の正答率が低い。
- 「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する」趣旨の設問で、適切なものを選択する設問の正答率が低い。

算数

算数A 主として「知識に関する問題」からみえた課題

- 「小数÷小数」を工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く設問の正答率が低く、無解答率も高い。
- 小数の除法の計算の仕方の理解が十分ではない。
- 直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ設問で正答率が低い。

算数B 主として「活用に関する問題」からみえた課題

- 「示された二つの表だけでは判断できないものを選ぶ」設問で正答率が低い。
- 1辺が9cmの正方形に内接する円をかくために、コンパスの鉛筆の先を合わせる位置を選ぶ」設問で正答率が低い。
- 「3つの式について、それぞれの式が何を計算しているのかの説明文を選ぶ」設問で正答率が低い。

3 教科における主な改善点

国語

- 本年度は漢字の読み書きはよくできたが、今後も、漢字を正しく読んだり書いたりする機会を計画的に設定し、繰り返し練習したり、既習の漢字を意図的に復習したりできるように指導して定着を図る。
- ローマ字の学習は3年だけではなく、継続的に、日常生活とも関わらせながら触れる機会を増やし、興味関心をもちながら習得できるようにする。
- 実生活の中で書く文や文章（ノート、連絡帳、掲示物など）において、正しい書き方を確認する習慣が身に付くように指導する。
- 引用の仕方を指導する（「」でくるなど）と同時に、引用したことについて自分の思いや考えを書くことを指導する。
- 話し合いの場において、話し手の目的や意図は何か、伝えたいことは何か等といった観点に基づいて、相手の話の内容を十分聞き取ることができるよう指導する。

算数

- 基礎的・基本的な計算の技能の習熟や維持を図るために、適度の繰り返し練習の機会を設ける。
- 基礎的な事項については繰り返し取り上げて、それを活用する中で習熟や定着を図ることができるようにする。
- 小数や分数を具体物、図、数直線等を用いて表すことで、大きさを実感したり小数と分数を結びつけて考えたりできるように分かりやすく指導する。
- 事前に見通しを立てたり、事後に振り返ったりする学習を授業の過程に位置づけ、より深い理解を生み出すようにする。
- 「つなげる算数」「家庭学習の手引き」を活用しながら、学校の学習と家庭学習とを連携させて学習の定着を図る。

4 質問紙調査の主な特徴

【生活習慣について】

- 「朝食を毎日食べていますか」という設問に対して「している」「どちらかといえばしている」で全員の児童が回答し、全国、県の割合を上回っている。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」の割合も全国や県の割合を上回っている。

【自尊感情】

- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合は、全国・県ともに上回っている。

【規範意識】

- 「友達との約束を守っていますか」の設問で、『当てはまる』『どちらかといえばあてはまる』で、全員の児童が解答している。
- 「学校のきまりを守っていますか」の設問で、『当てはまる』『どちらかといえばあてはまる』と回答している児童の割合は、全国・県の割合を上回っている。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問で、『当てはまる』と回答している児童の割合は、全国・県の割合を上回っている。

【学習習慣】

- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で、学校の授業の予習をしていますか」「家で、学校の授業の復習をしていますか」の設問で、『している』『どちらかといえばしている』と回答している児童の割合は、全国・県ともに上回っている。
- 「家で、学校の授業の宿題を『している』『どちらかといえばしている』と回答している児童の割合は、全国・県ともに下回っている。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」については、「30分以上1時間より少ない」と回答した児童が一番多い。

【家庭における学習以外の過ごし方】

- 「テレビやビデオを1日2時間以上視聴している」の割合は、全国・県よりやや高い。
- テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）については「1時間以上2時間より少ない」と答えた児童が多い。

【読書】

- 「読書は好きだ」と回答している児童の割合は、全国・県の割合を上回っている。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という設問に、『10分以上30分より少ない』の回答が一番多いが、『30分以上』『1時間以上』『2時間以上』と回答している児童の割合の合計は、全国・県の割合を上回っている。
- 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に、「週に4回」「週に1～3回程度」行くと答えた児童の割合が全国に比べて高い。

【学習に対する意識・言語活動】

- 「国語の授業は大切だ」「算数の勉強は大切だ」でほとんどの児童が『そう思う』『どちらかというと思う』と答えている。
- 「国語の勉強は好きですか」に『当てはまる』と答えた児童の割合は、全国・県の割合を上回っている。
- 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」で『当てはまる』と答えた児童の割合は、全国・県の割合を上回っている。
- ほとんどの児童が「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答しており、全国・県の割合を上回っている。
- 「授業の中で分からないことがあったらどうすることが多いですか」で、『友達に尋ねる』の割合が一番多く、『その場で先生に尋ねる』の割合が全国・県の割合を下回っている。

【その他】

- ほとんどの児童が「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」に『よく見る』『時々見る』と回答し、全国・県の割合より高い。
- 「新聞を読んでいきますか」の割合も、全国・県の割合を上回っている。
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」で、『当てはまる』『どちらかといえば当てはまる』と答えた児童の割合は、全国・県を上回っている。

5 質問紙調査からの改善点

- * 「早寝・早起き・朝ご飯」を基に、基本的な生活習慣の定着・維持について今後も各家庭と連携して推進する。
- * 様々な自主的・主体的活動の機会を与えるとともに、活動の支援を行い充実感や達成感を与え、自己有用感や自信をもたせる指導を重視する。
- * 道徳の時間や学級活動の指導の中で、日常生活と関わらせながら規範意識の育成に努める。
- * 「家庭学習の手引き」や「つなげる算数」を活用しながら、家庭学習の定着と充実を図りたい。授業の復習や家庭学習の方法等を指導し、家庭と連携しながら学習時間の確保、家庭学習の継続に努める。
- * テレビやビデオ視聴、及び携帯電話やスマートフォンを使ったゲームをする時間が長い児童も見られるので、家庭学習等に影響を与えないよう、家庭と連携して改善を図るように努める。
- * 読書好きの児童が多く、図書館等の利用状況もよいので、これからも読み聞かせ等を継続し、より一層読書活動の推進に努める。
- * 朝の会のスピーチや、授業における小グループでの意見交換等、自分の考えをもたせる時間や発表する場を多く設定し、発表に対する肯定的な評価を加え、自信をもたせたい。また様々な考えを受け止めるような集団の雰囲気作りにも努めていく。
- * 1時間1時間の授業を大切にし、一人一人の理解度を確かめながら学習の定着を図る。わからないことをわからないままにしておかない支援を心掛ける。
- * これまでも実践してきたところであるが、児童がはっきり意識できるように授業のはじめに目標を示し、授業の最後に学習内容を振り返るような授業形態をつくっていくように努める。

終わりに

本校の児童は落ち着いた雰囲気の中、毎日の授業に一生懸命に取り組んでいます。

この結果についてはあくまで平均値によるものであり、数値の高低だけで判断できるものではありませんが、この機会に生活習慣や学習時間等を振り返り、各家庭においても具体的に組み込んでいただきたいと思います。この先にある中学校生活・高校生活等も含めた進路を見据える中で、それぞれの児童の良さを認めながら、家族で将来の夢や目標等について話し合う機会をもっていただきたいと思います。

学校でも上記の結果をもとに、さらに指導に力を入れ、よりよい家庭学習のしかたについて指導したり、児童自らが自主的に学習に取り組むことができるように働きかけたりしていきたいと考えます。各ご家庭におきましても家庭学習の習慣が定着できるよう学習環境を整える等、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

